

## 幼保小の連携に即した音楽関連授業の考察Ⅲ

— 保育者の音楽意識を通して —

*A Study of Music Tuition from Relation between Kindergarten,  
Nursery and Elementary school (III)*

— *A Music Consciousness of Nursery* —

星野 英五 HOSHINO Eigo

(人間発達学部)

### I. 動機

名古屋芸術大学人間発達学部子ども発達学科は、2020年度で14年目を迎えている。今年度はコロナ渦の中、本学においてもオンライン授業が始まったのが5月中旬、実技関連の授業のみが7月から対面授業になり、8月中旬に前期の授業が終了した。入学式もやむなく中止に追い込まれ、学内への立ち入りが許される6月まで学生同士はもちろん教員との顔合わせも全くできない状態が続いた。オンラインを通してだけでは保育・教育者に必要な専門性が育つとは考えにくく、人間同士が触れ合うことで「思いやり・やさしさ」のある保育・教育者としての自覚が持てることは明白である。音楽関連授業では、対面で行うことが必要であると考えられる。

グローバルな時代、感染症は様々な分野に極めて甚大な影響を及ぼしている。その中で、今音楽の持つ力が少なからず脚光を浴びることとなっている。子ども達にとって、様々なメディアを通して音楽に触れることは簡単であることから、保育・教育者自身が良い音楽や映像の選択をすることがより重要になってくる。それと共に、学生が音楽関連授業で演奏したり歌ったりすることで表現する楽しさや喜びを味わい、その気持ちを子ども達に還元させることが求められる。音楽教育が子ども達の未来を資するものとなることを深く心にとめて保育・教育者を養成したい。

乳幼児期に培う音楽活動が、小学校の音楽教育へとつながり、延いては子どもたちの人間形成にまでつながるであろうという意識が保育者に求められている。保育者が子どもの主体的音楽活動を援助することで、子どもが実体験を生かした生活の中で、健やかな心身の成長を育めることが大切である。決して小学校で学ぶ音楽教科の内容と同じことを乳幼児に求めるものではない。

本研究は、「幼稚園教育要領」「小学校学習指導要領」の改訂にともない、乳幼児を対象に保育実践を行っている現職保育者の、「保育・教育者養成校の音楽授業のあり方」「音楽的保育観・教育観」「音楽的保育者観・教育者観」について比較検討をするものである。

また、乳幼児期から児童期につながる音楽活動の核となるものを明確にすることが課題となる。現職保育者の「自由記述」から保育と小学校教育へのつながりを探り、幼保小連

携音楽教育のあり方を考える。

今までの研究から、保育者は小学校音楽教科を充分理解しているとは言いがたく、以前から言われている幼保小連携が殆ど進んでいないことが分かる（星野，2018）。

併せてプログラミング教育が新小学校学習指導要領で2020年度から導入されるのを見据え、音楽におけるプログラミング教育についての意識も調査する。

オンラインは、教育界や保育界にまで必須の勢いで広がっているが、根本である子どもの育ちを援助するには音楽活動にオンラインをどのように活かすべきか早急に考えていきたい。

現職保育者の音楽意識を通し、本学学生の音楽意識の向上を計りプログラミング教育の理解にもつなげる。

## II. 研究方法

対象：保育者109名（公立幼稚園7名・私立幼稚園38名・公立保育所17名・私立保育所29名・その他子育て支援センター等18名）  
（総数123名・有効回答率88.6%）

時期：2019年11月～12月

方法：郵送及び手渡しによる質問紙調査

## III. 研究内容と考察

### (1) 音楽活動における年長クラス後半と小学1年生クラスの連携方法

表1 望ましいと考える音楽活動の方法（自由記述）

<ul style="list-style-type: none"><li>・幼稚園・保育所・こども園で親しんだ手遊びや歌やリトミックを連続して小学校で行う。</li><li>・それぞれの園や家庭の活動が様々であり、まず音楽に関心を持たせる工夫をする。</li><li>・同じ曲に取り組み歌や楽器等で違ったアプローチをする。</li><li>・幼稚園と同じように小学校でも音楽に触れる時間を増やす。</li><li>・正しい歌い方の指導を年長から小学校まで続けていく。</li><li>・幼保時代に色々な楽器に触れ正しいリズム感を育てる。</li><li>・幼児期に色々な歌を歌い楽しいイメージを持たせる。</li><li>・日常的に使っている楽器と一緒に演奏したり歌ってみる。</li><li>・幼児期からみんなで歌ったり合奏する楽しさを体験させる。</li><li>・遊びの中で培った連続した乳幼児期の育ちを小学校へ。</li><li>・小学1年生前半の内容は幼稚園・保育所と曲選びやリズムの基礎を話し合う。</li><li>・小学1年生の内容は慣れ親しんだわらべ歌や童謡・唱歌を楽しむ。</li><li>・年長児が小学1年生クラスに訪問し校歌を聴いたり集団遊びする。</li><li>・幼少期表現遊びの取り組みを小1カリキュラムへとつなげる。</li><li>・小学校や園の音楽会行事に年長児や小学校1年を招待する。</li><li>・小学校でどんな歌を歌ったり演奏するか保育者が知る。</li><li>・小学校教科書を参考に年長クラスでの音楽活動行う。</li><li>・小学生が幼保を訪れコンサートができるカリキュラムを作る。</li><li>・歌うことが楽しいと思って小学校へ入学できるようにする。</li><li>・小学1年生の合奏レベルを年長児よりあげてほしい。</li><li>・小学校でもわらべ歌を取り入れるとよい。</li><li>・元気に歌うだけではなく幼児期から発声の仕方や情景を思い描く。</li></ul>
--

表1は、年長クラス後半と小学1年生クラスの望ましいと考える音楽活動のつながりの主な記述をまとめたものである。

「園や家庭の活動が様々でまず音楽に関心を持たせる工夫が大切である。」「幼少時に色々な歌を歌い楽器に触れ楽しいイメージを持たせる。」という基本を大切にする記述がある。学童期に入り、「幼稚園と同じように小学校でも音楽に触れる時間を増やす。」「同じ曲に取り組み歌や楽器等で違ったアプローチをする。」「小学1年生前半の内容は慣れ親しんだわらべ歌や唱歌・童謡を歌い楽しむ。」といった幼保小連携に欠かせない内容の記述がある。

音楽活動においても幼保小相互交流の場面をできるだけ増やし、双方の基本的な考え方の差を保育者小学校教育者自ら縮めていく必要がある。

## (2) 音楽プログラミング教育について

表2 幼児期のプログラミング教育導入準備（自由記述）

- ・幼稚園教育要領にあるようにまず豊かな感性を養うことが大事である。
- ・幼児期はリズムが取れるように音遊びを中心とし、最終的な目標を作曲とする。
- ・子どもができる範囲を大人が知り、音楽を嫌いにならぬよう無理をしない。
- ・表現力や思考力を養う身体表現を行い音楽に親しむリトミック的活動を取り入れる。
- ・楽器の音の出る仕組みを知る機会をつくり、プログラミングにつなげる。
- ・メロディーに自分の好きなコードを組合せソフトで実演する。
- ・映像を通して様々な世界の音楽に触れ、使用する機器を保育者を通して見て触れる。
- ・身近にある様々な音を使い動画に合せ曲を作る等試みる。
- ・コンピュータを使用し演奏しその上で実際の楽器毎のパート譜を作成する。
- ・様々な楽器に触れコンピュータ上で好きな楽器の音を選び曲作成。
- ・まず自分で考える廃材遊び等を行い好きなゲーム音楽等を取組み楽しむ音楽指導をする。
- ・子どもが個性を活かし自ら考えて作れるような活動を増やす。
- ・リズム、パターンの面白さを気付かせるプログラミング教育を導入する。
- ・幼児期にいろいろな音やリズムに触れ発想力を豊かにする。
- ・絵とリズムが連動して動く等楽しみながら思考力等を育てる。
- ・音楽に合せてクリックしていくようなゲームで音楽を楽しむ。
- ・音楽活動にプログラミング教育導入の意義をしっかりと理解する。
- ・音の重ね方色々な音や楽器組合せ試行錯誤し音作りする。
- ・音楽と絡ませ導入する事の保育者の十分な知識が必要。
- ・アナログ形式を基本としその上でネットやコンピュータを使い楽しむ。
- ・具体的な例を示しながら自由に表現し作成できるようにする。
- ・音の強弱や休符等視覚的に見れるようにする。
- ・沢山楽器に触れ自分の好きな曲や課題曲を作ったりする。
- ・作曲等形にとらわれない個々が活かされる一つにする。
- ・本物の楽器に触れコンピュータ上で色々な楽器を選び合奏する。
- ・まず現代の環境（自然×コンピュータ）の中で育つ感性を大切にす。
- ・楽器を組み合わせたり、曲の調子を選択し音楽の幅を持たせる。
- ・個別にタブレットやコンピュータで作曲や演奏ができる体験をする。
- ・色々な音や曲に触れ自由に曲作りやリズム作り行う。
- ・幼少期に非認知能力を伸ばしプログラミング教育に結びつける。
- ・幼児期には探究する力と発想する力を養う。
- ・幼児期にはプログラミングをする要素を知ることが大切である。
- ・楽器がなくてもタブレットやコンピュータで作曲演奏できる事を知る。
- ・積極的にコンピュータに触れ合い試行錯誤しながら発見する力を育てる。
- ・絵本の読み聞かせにコンピュータでBGMを作り身近なものにする。
- ・画面上の五線に音符を入れ簡単な曲を流す。
- ・小学校と連携を取り幼児期までに育てたい力をお互い話し合う。
- ・プログラミング教育がどのようなものかまだ分からない。

表2は、小学校音楽でプログラミング教育を導入した場合幼児期にはどのような準備が必要かの主な記述をまとめたものである。

「幼児期にはまず豊かな感性を育てる」「幼児期には非認知能力を伸ばしてからプログラミング教育に入る」「沢山の楽器や色々な歌を歌う」「リズム、パターンの面白さを気付かせる教育を導入する」等、生の音楽的な体験を幼児期に重要視している。

一方、「プログラミング教育がどのようなものかまだ分からない」という意見もあるが、「音楽活動にプログラミング教育導入の意義をしっかりと理解する」「積極的にコンピュータに触れ合い試行錯誤しながら発見する力を育てる」等、先進的な新しいものに挑戦していく意見もあり、急激に変化する子どもの環境に対応しようとする保育者の意見があり頼もしい限りである。

幼児期には直接体験が重要であると保育者と小学校教員が共感し合うことが必要であることを学生の意識として持たせたい。

### (3) 現職保育者が大学の授業に期待すること

表3 大学の授業で重視したいもの

項目	保育者養成	教員養成 (小学校)
1. 音程やリズムに気をつけて歌える	62名 (56.9%)	63名 (57.8%)
2. 歌詞を理解し子ども達の心を育てるような説明ができる	57名 (52.3%)	<75名 (68.8%)
3. 唱歌や童謡が歌える	57名 (52.3%)	48名 (44.0%)
4. 伝統的なわらべ歌で遊ぶ	56名 (51.4%)	>26名 (23.9%)
5. ピアノやエレクトーンの演奏技能 (伴奏) を高める	44名 (40.4%)	37名 (33.9%)
6. 生活習慣 (手洗い・歯磨き等) を身につける歌を知る	59名 (54.1%)	>11名 (10.7%)
7. 音楽理論が分かる	12名 (11.0%)	<43名 (39.4%)
8. プログラミング教育をにらんで ICT を活用できる	3名 (2.8%)	<20名 (18.3%)

表3は、現職保育者が大学の授業に期待したいものについて、『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内、『非常に重要だと思う』と回答したものを保育者養成と教員養成 (小学校) に分けたものである。

「6. 生活習慣 (手洗い・歯磨き等) を身につける歌を知る」で保育者が高い ( $p<.05$ )。 「2. 歌詞を理解し、子ども達の心を育てるような説明ができる」「7. 音楽理論が分かる」「8. プログラミング教育をにらんで ICT が活用できる」が小学校教育者で高い ( $ps<.05$ )。

幼児期にとって長い間親しまれてきた唱歌やそれぞれの地方で日本古来から伝承されているわらべ歌は重要であるが小学校においても音楽を次の世代に継承していく教育は必要である。西洋音楽 = 高度な小学校音楽教育であるという保育者の意識は改善していきたい。歌詞を理解し心を育てる説明は幼児教育にも当然必要であり、ただやみくもに歌うものではない。子どもが自ら今後コンピュータのソフトウェアや教育機器を効果的に活用す

る機会を持たせるためにも、プログラミング教育を保育者が十分知識として理解することが幼保小連携の課題である。

(4) 現職保育者の音楽的保育観・教育観

表4 音楽的保育観・教育観

項目	保育者養成	教員養成
1. 楽しく音楽にかかわり音楽に興味・関心をもたせる	87名 (79.8%)	>70名 (64.2%)
2. 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ	77名 (70.6%)	>54名 (49.5%)
3. 音楽的リズム活動はこどもの心身の発達に大きく影響する	68名 (62.4%)	62名 (56.9%)
4. 歌詞を理解し子ども達の心を育てるようにする	56名 (51.4%)	69名 (63.3%)
5. 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関りを大切に	67名 (61.5%)	54名 (49.5%)
6. おだやかなメロディーは優しさ思いやりをはぐくむ	55名 (59.5%)	51名 (46.8%)
7. 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じがわかるように	42名 (38.5%)	56名 (51.4%)
8. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる	37名 (33.9%)	<57名 (52.3%)
9. 唱歌や童謡を歌えるようにする	48名 (44.0%)	39名 (35.8%)
10. CDなどの音響機器は音質の良いものを選ぶ	29名 (26.6%)	38名 (34.9%)
11. 音楽環境が子どもの心理状態に影響する	36名 (33.9%)	37名 (33.9%)
12. 伝統的なわらべ歌遊びは日常的に取り入れるように	48名 (44.0%)	>16名 (14.7%)
13. 生活習慣(手洗い・歯磨き等)を身につける歌を取り入	51名 (46.8%)	>11名 (10.1%)
14. 英語の歌を子ども達に歌わせる	10名 (9.2%)	<38名 (34.9%)
15. プログラミング教育をにらんでICTを活用する	3名 (2.8%)	<21名 (19.3%)

表4は、現職保育者の音楽的保育観・教育観について『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内、『非常に重要だと思う』と回答したものを保育者養成と教員養成に分けたものである。

「1. 楽しく音楽にかかわり音楽に興味・関心をもたせる」「2. 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ」「12. 伝統的なわらべ歌遊びは日常的に取り入れるようにする」「13. 生活習慣(手洗い・歯磨き等)を身につける歌を取り入れる」で保育観が高い(ps<.05)。「4. 歌詞を理解し子ども達の心を育てるようにする」「8. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる」「14. 英語の歌を子ども達に歌わせる」「15. プログラミング教育をにらんでICTを活用する」が教育観で高い(ps<.05)。

乳幼児期の音楽教育は将来の基礎となることから音楽に興味関心を持たせるという意識が表れている。日本古来の遊びであるわらべ歌等集団遊びは小学校低学年の音楽活動で最も重要なものと考えられる。英語教育やプログラミング教育は小学校高学年で重要になってくる為、保育者の視野にはまだまだ入り辛いことが分かるが、今後時代の流れと共に変化していくことに期待したい。

## (5) 現職保育者が期待する音楽的保育者観・教育者観

表5 音楽的保育者観・教育者観

項目	保育者	教育者
1. 音楽に合わせて体を動かす事ができる	65名 (59.6%)	59名 (54.1%)
2. 子どもの発達に合った音楽指導できる	62名 (56.9%)	70名 (64.2%)
3. 子どもに合わせてピアノ・エレクトーンで伴奏ができる	65名 (59.6%)	56名 (51.4%)
4. 音楽が好きである (歌う事を楽しむ・鑑賞するなどする等)	65名 (59.6%)	63名 (57.8%)
5. リズム感がよい	57名 (52.3%)	62名 (56.9%)
6. 生活の中にある音に耳を傾け音の面白さに気付く	67名 (61.5%)	>50名 (45.9%)
7. 歌詞を理解し、子ども達の心を育てるような説明ができる	50名 (45.9%)	65名 (59.6%)
8. 唱歌や童謡を歌えるようにする	52名 (47.7%)	44名 (40.4%)
9. 響きのあるきれいな声で歌える	28名 (25.7%)	<49名 (45.0%)
10. 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる	30名 (27.5%)	<46名 (42.2%)
11. 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる	35名 (32.1%)	40名 (36.7%)
12. 手・指遊びが上手である	54名 (49.5%)	>13名 (11.9%)
13. 生活習慣 (手洗い・歯磨き等) を身につける歌を教える	47名 (43.1%)	>12名 (11.0%)
14. 鍵盤楽器 (ピアノ・エレクトーン) 以外の楽器ができる	22名 (20.2%)	<36名 (33.0%)
15. 英語の歌 (簡単な) を子ども達に教えることができる	11名 (10.1%)	<32名 (29.4%)
16. コンピュータを利用し音楽活動に役立てる能力がある	7名 (6.4%)	<21名 (19.3%)

表5は、音楽的保育者観・教育者観について『非常に重要だと思う』『やや重要だと思う』『あまり重要だと思わない』『全く重要だと思わない』の4段階評定の内、『非常に重要だと思う』と回答したものを保育者養成と教員養成に分けたものである。

「12.手・指遊びが上手である」「13.生活習慣(手洗い・歯磨き等)を身につける歌を教える」で保育者が高い( $p < .05$ )。「9.響きのあるきれいな声で歌える」「10.音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる」「15.英語の歌(簡単な)を子ども達に教えることができる」「16.コンピュータを利用し音楽活動に役立てる能力がある」が小学校教育者で高い( $p < .05$ )。乳幼児期にとって排泄などの生活習慣をつけることは大切である。それと同時に手遊びや指遊びは運動感覚の発達にとっても重要である。小学校低学年においても手遊び指遊びは反射機能やコミュニケーション能力の発達にもつながる要素があり、もっと取り入れられるべきであろう。歌詞を理解して心を育てることは小学校道徳教育にも結びつくことであると考え。道徳教育は幼保小連携の重要部分であり、音楽と結びつけることでより効果があがり自ら考える総合的な学習の一環に発展していくものとも考える。

## IV. まとめ

小学校低学年の音楽教育を想定して、保育者が子どもの音楽教育を実践していくことが望ましい。今回の調査で幼保小の音楽教育の連携において、保育者のみの回答において小

学校教育についての回答のない無効回答が11.4%の割合であった。小学校の教育と保育とは全く別のものと考えているのであろうか。個別の保育方針を持つ園も多く音楽教育への取り組み方にかなりの差があることは否めない実状であろう。音楽を通して、道徳教育の芽生えや豊かな感性と思いやりと優しさを育む環境作りは、保育ばかりでなく小学校教育にも継続しなくてはいけない課題である。

生きる力を得るために、音楽する力を幼少時から育むことの大切さはどんな時代にあっても不変である。音楽の力を借りて、幼稚園教育要領に示されている『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を学生が理解できるように音楽関連授業を考えて行きたい。

収束が見えないコロナ禍で、実技を伴う音楽においては、これまで以上に幼保小連携が難しいことは明らかである。どんな状況の中でも子どもたちの喜んだり悲しんだり、憤ったりという感情のエネルギーが表現の源となる。音楽は表現の一つの手段であることを忘れず子どもたちに向き合っていくことが、幼保小の連携につながると考える。幼稚園・保育所は小学校のように校区がある訳ではなく保育内容や環境などから保護者が選択する昨今である。従って子ども達は全て同じ内容の音楽を小学校就学までに経験している訳ではない。音楽の扱いは園により様々であることは周知しているが、歌わせる・楽器をさせる等強要するものであってはならない。子ども達が自発的に表現できるよう手助けできる保育・教育者であるようお互いの立場を越え理解し合う姿勢が求められている。子どもたちが「音楽ってやっぱり楽しい、大好き」と言える保育・教育を学生と共に目指したい。

コロナ禍の中、文部科学省や教育委員会から当面の間、歌唱活動・リコーダー・鍵盤ハーモニカ等を使った音楽活動を行わないよう要請されている。とはいえ、楽器の経験や歌を歌うことだけが音楽ではない。誰もがどこかで音楽を聞いているはずである。街を歩いてどこからか流れてくる調べ、自然界の音、生活の音、それらに耳を傾けるだけで心は豊かになると考える。たとえば、鳥の声・小川のせせらぎ・風の音・雨の打ちつける音・誰かの足音・お湯を沸かす音・料理をする音などから音楽を知ることできる。このような身近な音を再発見するのも、また名曲を鑑賞し何かを感じとる力を養うこともこの機会だからこそ重視したい。

豊かな想像力と創造力が求められる時代には、今までとは脳の使い方も変わることが予想される。現代にいたるまで教育や就労においては左脳が重視されてきた。それは先の見える社会では確実に通用していた。しかし今は、「どう社会を変えるか」「どんな未来を作るのか」といった確固たる答えのない大きな問いが我々に迫ってきており、今までにない発想やイノベーションを生む力などが求められている。つまり右脳がより重視されるようになってきている。右脳は秩序だっていないが、多くのイメージや音の可能性を持つ領域である。暗記したものを素早く取り出す左脳的な問ではなく「なぜ」という右脳に訴えかけるような問いは、その問題の原点に立ち返らせ、そもそも何が問題なのかを改めて問う。そこから全体を見直していく。つまり大局的・複眼的視点を持つことを促されるのである。

右脳から左脳に問いかけて脳を使って構築すること。まさに音楽創造はこのプロセスをたどる。そして、それは未来社会の創造にも生かされるのではないだろうか。義務教育における音楽の授業時間が日本では少なくなっているが、マサチューセッツ工科大学ではこのような理念の元、学生の4割が音楽の授業を履修しているという。「創造する力」に音楽が果たす意味を熟慮する必要があるのではないだろうか。

社会の大きな転換期を突如迎えてしまった今だからこそ、プログラミング教育を音楽にどう取り入れていくかも大きな課題になってくる。

人や物がグローバルに行き来する時代である以上さらなる感染症や唐突な社会の変化に遭遇することは避けて通れないであろうが、「音楽は人の心を豊かにし想像力と創造力を培う」ことへの理解を幼保小の連携で深め、子どもたちの心に常に寄り添える保育・教育者の養成をするものである。

音楽関連授業は、難しい時代を見据え、子どもたちの心を育むことを第一に考えていきたい。

## 引用文献

星野英五 2018「学生の音楽意識Ⅱ—保育者の意識との関りから—」日本保育学会第71回大会発表論文集 p. 707

星野英五 2020「学生の音楽意識Ⅲ」日本保育学会第73回大会発表論文集 pp. 789-790

星野英五 2019「幼保小の連携に即した音楽関連授業の考察Ⅱ—学生と保育者の音楽意識の比較から—」名古屋芸術大学研究紀要第40巻 pp. 265-273

## 参考文献

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説音楽編 文部科学省

MIT マサチューセッツ工科大学 音楽の授業 菅野恵理子著 あさ出版

## 追記

本稿は、日本保育学会第73回大会発表論文集「学生の音楽意識Ⅲ」を転載・改稿し内容を深めたものである。

研究に協力くださった幼稚園・保育所・こども園・子育て支援センターの本院卒業生を含んだ先生方に心から感謝申し上げます。

## 質問紙

### 1. あなたの性別と勤務先と免許・資格取得について

- ① 1. 男性 2. 女性
- ② あなたの勤務先は、現在、どれにあてはまりますか。右欄の数字に○をつけて下さい。
  1. 公立幼稚園 2. 私立幼稚園 3. 公立保育所（園） 4. 私立保育所（園） 5. その他
- ③ あなたはどの資格・免許を取得していますか。あてはまるものを選んで右欄の数字にいくつでも○をつけて下さい。

1. 幼稚園教諭免許 2. 保育士資格 3. 小学校教諭免許 4. その他

④ あなたの教育・保育者としての経験年数をお書きください。

## Ⅱ. 子どもの幼稚園・保育園時代と小学校の音楽活動の考え方について

- ① 幼保小連携で大事なことの1つは、年長クラスの後半と小1クラスの前半でつながりのあったカリキュラムを作ることと言われています。音楽活動ではどんな方法が望ましいと考えられると思いますか。
- ② 子どもの幼稚園・保育園時代の音楽活動と小学校の音楽活動はどのように違うと考えますか。
- ③ 小学校において2020年からプログラミング教育が導入されます。音楽でプログラミング教育を導入するとしたらどのような形が望ましいと思いますか。また、それに向かい幼児期にはどのような準備が必要だと思いますか。

## Ⅲ. 保育者養成（保・幼）・教育者養成（小学校）の大学の授業について

教育者・保育者にとって音楽活動をする上で、以下の項目をどの程度重視した方がよいと思いますか。4「非常に重要だと思う」、3「やや重要だと思う」、2「あまり重要だと思わない」、1「全く重要だと思わない」の中から保育者（幼・保）教育者（小学校）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。（1）ピアノやエレクトーンの演奏技能（伴奏）を高める（2）音程やリズムに気をつけて歌える（3）歌詞を理解し、子ども達の心を育てるような説明ができる（4）伝統的なわらべ歌で遊ぶ（5）音楽理論が分かる（6）唱歌や童謡を歌える（7）生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を知る（8）プログラミング教育をにらんでICTを活用できる

## Ⅳ. 教育・保育について

あなたの考えている教育・保育に、次の項目はどの程度あてはまると思いますか。または必要だと思いますか。4「非常に思う」、3「やや思う」、2「あまり思わない」、1「全く思わない」の中から保育者（幼・保）教育者（小学校）に分け1つずつ選んで○をつけて下さい。

(1) 音楽的リズム活動は子どもの心身の発達に大きく影響する (2) 楽しく音楽にかかわり音楽に興味・関心を持たせる (3) 音楽環境が子どもの心理状態に影響する (4) 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる (5) おだやかなメロディーは優しさや思いやりをはぐくむ (6) 伝統的なわらべ歌遊びは、日常的にとり入れるようにする (7) 生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につける歌を取り入れる

- (1) 歌詞を理解し、子ども達の心を育てるようにする  
 (2) 唱歌や童謡を歌えるようにする  
 (3) 歩く走るスキップなどリズムカルな動きを楽しむ  
 (4) 子どもの生活の中でよく耳にする音や音楽の関わりを大切にする  
 (5) CDなどの音響機器は音質のよいものを選ぶ  
 (6) 楽しさ活発さ静かさ優美さなど曲の感じが分かるようにする  
 (7) プログラミング教育をにらんでICTを活用する  
 (8) 英語の歌を子ども達に歌わせる

## Ⅴ. 保育所・幼稚園・小学校の先生のあり方について（あなたの勤務先に関わらず両方答えて下さい）

あなたは、保育所・幼稚園・小学校の先生について、次の項目はどの程度必要であると思いますか。

(1) 音楽が好きである（歌うことを楽しむ・鑑賞などする等）(2) 生活の中にある音に耳を傾け音の面白さに気付く (3) 英語の歌（簡単な）を子ども達に教えることができる (4) 様々なジャンルの歌を子どもに歌わせる (5) 音楽指導の中で個々の子どもの音楽的能力を把握できる (6) 生活習慣（手洗い・歯磨き等）を身につけさせる歌を教えることができる (7) 子どもの発達に合った音楽指導ができる。 (8) 歌詞を理解し、子ども達の心を育てるような説明ができる (9) 唱歌や童謡を歌えるようにする (10) 響きのあるきれいな声

で歌える (11)鍵盤楽器（ピアノ・エレクトーン）以外の楽器ができる (12)手・指遊びが上手である (13)リズム感がよい (14)子どもに合わせて伴奏ができる（ピアノ・エレクトーンで） (15)音楽に合わせて体を動かすことができる (16)コンピュータを利用し音楽活動に役立てる能力がある

どうもありがとうございました。